

## 刑法 出題の意図

問題1は、刑法各論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。事例を設定させるのは、適切な事例設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1)は、ごく最近の司法試験論文式問題にも出題された名誉毀損罪のうち、真実性の誤信という典型論点に関する基本的な理解を問うものである。刑法230条の2が制定されている理由や、故意を阻却とする判例の立場が正しく理解できていることが必須であり、現在複雑化している学説の対立状況に関し一定程度以上の適切な理解が示されていれば高評価となる。(2)は、国家的法益に対する罪の中でも議論の多い賄賂罪の基本である保護法益に関して問うものである。「国民の信頼」を保護法益理解の中核に据えるかどうか、それに伴い影響を受ける単純収賄罪（刑法197条1項前段）の罪質について正しく理解できているかが問われている。

問題2は、不能犯という刑法総論上の典型論点につき問う事例問題である。不能犯と未遂犯の区別に関しては多くの見解が乱立しているが、その中で自らが正しいと考える規範が論理的に示されており、客体の不能および方法の不能の場合にそれぞれ矛盾なくあてはめられているかを問うている。